

ISTA に参加して

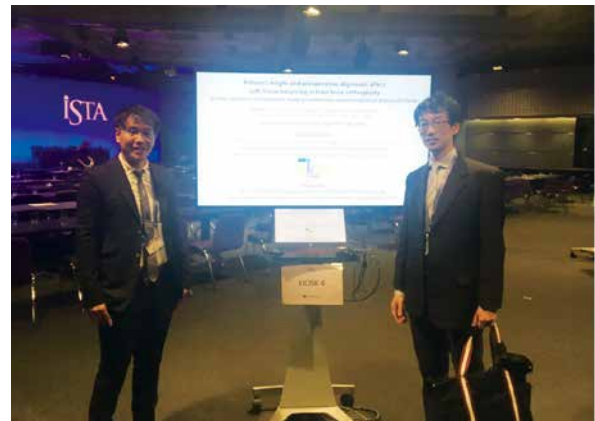
整形外科学教室 大学院3年 若間 仁司 (平成24年入局)

2018年10月10日から13日までイギリスのロンドンで開催された31st Annual Congress of the International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) に指導医の岡本純典先生と参加しました。

私自身は国際学会への参加は初めてで、英語も不得手であります。抄録やスライド作成の際には岡本純典先生をはじめとする大学の先生方に大変お世話になり、ありがとうございました。また、私自身近年の渡航において数多くの天災に遭遇したこともあり、無事に帰国できるかどうか心配でしたが、特に大きな問題もなく帰国することができました。

本学術集会は世界中の人工関節に携わる外科医やエンジニアや企業が参加し、演題数は700以上、日本からの発表も多く、大学院帰学前から参加してみたいと思っていた憧れの学術集会でしたので、夢が実現した思いでした。また、イギリスは以前 mini cooper を所有していた際、mini Bond street や mini Baker street、mini Hyde park、mini Victoria、mini Molton edition など特別仕様車の名称に地名や道路の名前がついていたこともあって、車好きの私にとっては一度訪問したいと思っていた国でした。

私の演題はe Poster + short talk で採択していただきました。演題名はPatients Height and Preoperative Alignment Affect Soft Tissue Balancing in Total Knee Arthroplasty: A Cross-Sectional Retrospective Study on Continuous Determination of Distraction Force で、人工膝関節置換術の軟部組織バランスに関する演題でした。人工膝関節置換術の軟部組織バランスは日本人が得意とする分野であり、私が発表したセッションの半数は日本からの演題でした。しかし、座長は日本人ではなく、質問も当然英語ですので、質疑応答が正確にできるか、そ



Posterの前で岡本純典先生と



学会場の様子

もそも質問内容を理解できるかなどの不安があり、緊張しました。何とか自分の演題をこなしましたが、緊張のあまり汗だくでした（10月のロンドンは日本より肌寒い）。

学会場は多数のセッションがあり、数多くの演題を聴講させていただきました。果敢にも疑問に思ったことに対して数件の質問をさせていただき、緊張しましたが貴重な体験をさせていただきました。

学会開催中は朝から晩までずっと会場にいたので、特に観光もしていませんが、会場のQEII Centreは

国際学会に参加して

ロンドンのウエストミンスター地区にあり、有名なビッグベンが会場から見えていましたが、残念ながら改装中でした。最終日、少しは観光しようと思い、重たいスーツケースを引きずりながら、バッキンガム宮殿施設内の公園を岡本純典先生とともに散歩し、空港へ向かいました。

国際学会は不安や緊張も多く、国内での学会発表以上に準備期間も必要ですが、明確な目的と目標をもって参加することで非常に有意義な時間を過ごせると思いました。また、大学院4年間という限られた時間の中で世界を垣間見るということは、今後の研究や臨床意欲の向上につながると感じました。

先生方にはご多忙の中ご指導いただき、深く感謝しています。今後は、英語論文が採択されるよう精進させていただきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



ロンドンの建物とバス